作成日　1999 年　5 月 31 日
改訂日　2026 年 10 月 9 日

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）	フィトグリコーゲン
供給者の会社名称	キユーピー株式会社
住所	東京都渋谷区渋谷１－４－１３
担当部門	ファインケミカル本部
電話番号	03-5384-7779
緊急時連絡電話番号	03-5384-7779
FAX 番号	03-5384-7879
推奨用途及び使用上の制限	化粧品用途 等

２．危険有害性の要約

＊本製品にはエタノール（CAS 番号：64-17-5）を約3%程度含有しています。
（製造工程中にエタノールを使用しており、製品中に約3%程度残存しています。）
以下、エタノールに関する GHS 分類による危険有害性を記します。

GHS 分類（エタノール：約3%含有物質として）：

物理化学的危険性
該当しない

健康に対する有害性
発がん性：区分1A
生殖毒性：区分1A
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分2（肝臓）

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：
発がん性のおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（肝臓）

注意書き：

安全対策
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

応急措置
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

保管
施錠して保管すること。

廃棄
内容物、容器を国、地方の規則に従って廃棄すること。

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	グリコーゲン
CAS 番号	9005-79-2

＊エタノール（CAS 番号：64-17-5）を約3%程度含有

４．応急措置

吸入した場合	うがい等で鼻孔、口腔を清浄にする。 使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にする。気分が回復しない場合は医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合	水洗する。必要に応じて医師の診察を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易.に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄する。必要に応じて医師の診察を受けること。

５．火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、砂、粉末、泡沫等
使ってはならない消火剤	利用可能な情報はない
火災時の特有の危険有害性	加熱により一酸化炭素､二酸化炭素が発生する可能性がある。
消火を行う者の保護	通常の火災同様、適切な個人用保護具、自給式呼吸器を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護具（保護眼鏡、防じんマスク、保護手袋等）を着用する。

環境に対する注意事項

できる限り回収し、河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じん発生を防止するため水でしめらせ回収する。少量はウエス等で拭き取り、多量の水で洗い流す。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

使用時は粉じんを立てないように注意する。強酸化剤との接触を避ける。適切な保護具を着用する（8.ばく露防止及び保護措置を参照)。

保管

密封のうえ、直射日光、高温多湿を避け常温で保管する。強酸化剤から離して保管する。

８．ばく露防止及び保護措置

設備対策	取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設置する。
保護具	保護眼鏡、防じんマスク、保護手袋、長袖作業衣等、必要な保護具を着用すること。

９．物理的及び化学的性質

物理状態	粉末
色	白色～黄色
臭い	わずかに特異なにおい
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界および 爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし

溶解度	水に可溶。有機溶剤に不溶。
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の保管・取り扱いにおいて安定
危険有害反応可能性	通常の処理ではなし
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	加熱により一酸化炭素、二酸化炭素が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性

ラットにおける急性経口毒性（LD_{50}）5g/kg 以上

皮膚腐食性／刺激性	
皮膚一次刺激性	刺激性なし
ヒトパッチテスト	異常なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	
眼刺激性	刺激性なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
皮膚感作性	陰性
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし

エタノールに関する情報（GHS 分類）

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2B

ウサギを用いた２つの Draize 試験において中等度の刺激性と評価されている（SIDS）

発がん性：区分1A

エタノールは ACGIH で A3に分類されている（ACGIH）。また、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされている(IARC)。

生殖毒性：区分1A

ヒトでは出生前にエタノールを摂取すると胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている(PATTY)。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠期に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存性の女性と関連している。

特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分3（気道刺激性、麻酔作用）

ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている（PATTY）。

特定標的臓器毒性（反復暴露）：区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）

ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する（DFGOT）。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は3種類の治療薬を承認しているとの記述がある（HSDB）。

12. 環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余物及び包装材料の廃棄においては、関連法規ならびに国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

国連分類、国連番号	該当せず
その他	高温、水濡れ注意。乱暴に取扱い容器を破損させない。

15. 適用法令

・労働安全衛生法

本製品中にはエタノールが約 3%程度残存しており、名称等を表示すべき危険物及び有害物、名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条・第 57 条の 2、施行令第 18 条・第 18 条の 2）に該当する。

16. その他の情報

参考文献

NITE（独立行政法人製品評価技術基盤機構）化学物質総合情報提供システム：NITE-CHRIP
JIS Z7253:2019, JIS Z7252:2019
事業者向け GHS 分類ガイダンス（経済産業省／令和元年度改訂版(Ver.2.0)）
職場の安全サイト（厚生労働省）

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、必ずしも全ての情報を網羅しているものではありません。また、安全な取り扱い等に関する情報提供を目的としておりますので、記載のデータや評価に関しては、製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。
新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱いを願います。